



內外新報

第三號



西垣文庫 特
 文庫 10
 7352
 11



特 文庫10
7352
11

西垣文庫

内外新報第廿七號

慶應四年五月二日



○京都よりの来状と抄出

辰三月初日會藩家老柳系源兵衛と系い

天朝英に 宥極門家に申出る

今段松平肥後守儀 朝敵の名を蒙り重く申入らば
去肥後守に於ていそ忠を義に奉り 朝敵の名を蒙
り進討に 治出り所何れ申入らば右に付肥後守義
朝敵より討たれども元來松平肥後守家より保料
以て召置たりに付今段肥後守松平此称号を徳川

口返却了任い家跡くまの君使守を以て保科家相續
 系傳付下以之と士氏一等 於恩を重し忠節を了
 其是美以付世降法團屋系下並以極中出る
 系傳流之書 申出以條玉極尤以有之以故とも今追付
 系 傳出仙臺估作爲了命令有之上の世方以て彼是
 と申美系く子と國傳上引れ在る意く有光輝へて中出
 以世方以て再とて條不相成以事
 柏原又云 河沙法く難由尤其累く以とも今防戡去く
 内以不背く秋兵出 皇國降部く其其惡案如世に歎
 難信く今仙臺法味等戰年又たうびいれく金津家く

人殺を以て先陣く人殺を切斷し是と之日と過きに
 仙臺く本城系取以故事申以有之古いたく 坂東過中
 以會津く下と位ひて下古いたく 皇國く大亂美氏
 冷家く其其致去命く以古極其く内其歎難く其の中
 述る
 系傳之 何系其傳く以舟以付老の角由子と國傳に引
 取光輝追付く角く以中出命く以之に世方以て再と
 け十百安以
 柏原之 古以て如何極中其く由河沙と事其く以
 へい世と之國傳へ引れ其 河沙法く有士氏に二十

聞
右ノ通言ハモテト下指五人ノケケ津家来レ礼ヲ願
シ出之ハ事ノ事

○
一友人東奥ノ逸事ヲ探聴シ寝メケテ殺害ヲ行シ我社
ニ投與セリ固ク内介新報廿一号ヨリ逐次挿入シ
之ハ々々聖智ノ附レ

○
或人ノ語シテ聖智由徳田ノケケ我輩ノ所ノレハ晩
老ノ人オケテ後法ノ旨オケケ退ハケケ右鎮撫トシケ

官軍兵向ハケケ休丈ヲ防備セんとシケ遂ニ合戦ハ成
里シケケ固ク双方ノ激ヲ起シケ官軍脱兵トモハ我
地引ケケハハハ

○耕系清記勅 王ケ後ハ付者出ハケケ預書吾レ
行下ケレ

世思ハ書附其形トハ私先程ケケ後ハ 清和天皇ノ後ハ
仁本トシケケハ家臣耕系志ケ耕系郷ノ居住ケケ耕系
次弟ハ弟ヲ始メケケ家名耕系ト相成ケケ後聖武ケ退キケ
河國安祥ハケケ越ハケケ同居住ケケ在ハケケ平長親ハ初メケ
附居住ケケハケケ付同居住ケケ在ハケケ大抵ハケケ河國情ヲ知ケ

ふく其位或石之指七石所應仕るは及林系六石御門
の子林系一帝右御門義寛永の以 新院清和附系 後
付江叙従下位下位法路古重柳王出格の位をりり
朝恩と蒙り長く在系なる 後付軍加し相討ひ親揮
世と事難首途に其意く之と新に山城國相樂郡相樂村
以むりく石石所加増下垂和上野國上石石無形
産以以付右返知仕る山城國とむりく一石六石下場
於合八百之指七石指に石を成以在系中其新に私家
兼之法路古次男林系古平右に在り内之石石分依仕
以然る事私系大書以之なる上系是と國學枕心是す

和宗所出勅道其勤 之と志且夕以は存く世世及美機
所一新の所布令也 後出以以付て以依以く勤 王正
義く所其之相勤也及安ん其勤親奉人以は存く依く世
後上系仕る石石所存有る後叙叙仕る小身微力く
儀以く其思入以へり何事恭件 新院清和附系 後
付以清中儲由法度以以付 清藤系系為成下相意く清
用系為 後付以下以く 康大く後難有存在り何分
所寛恕く所不長系為成下以孫所概奏其新に誠思誠
惶頓首儀言

四月廿日

神宗清記

先生の引取の事

○

方今我ダ新報の世に公行まゝや益盛大にしく寒郷僻
 邑も到らざる如く牧童漢兒も着ざる如く然るに上書
 建言の如きに至つては文字間了しながさるを因るに
 二三と據ひ附まると因字を以てし解まると俚語を以
 てし集録しる内外新報字類と名づけ上梓しる以て童
 蒙の便を發兌近きんらり

